# 夏季オリンピック・パラリンピックと人権

２０２０年、東京で第32回夏季オリンピック、第16回パラリンピック大会が開催されます。世界中の人々が日本に集まることで、経済波及効果や大規模なインフラの再整備など、すべての人にとって住みよいまちづくりの進展が期待されています。

また、来日する外国人が増え、皮膚の色や言語、宗教などが異なる人と触れ合う機会も多くなります。お互いを尊重することの大切さを直接感じることができる、良いきっかけになると考えられます。

## 大会を人権の視点から見ると

### １ 女性の参加

オリンピックではメダル争いばかりが注目されがちです。しかしオリンピックの基本精神は、スポーツを通して、心身の調和のとれた人間を育成し、道徳や連帯感を育み、平和な世界を目指すことにあります。さらに、平和を目指すオリンピックの根幹には、人権の尊重が位置づけられています。

しかし１８９６年の第１回アテネ大会では、女性の権利が十分に保障されていなかったため、女性は参加できませんでした。女性が初めてオリンピックに参加したのは、１９００年の第２回パリ大会。全出場選手９９７人中、女性はわずか22人でした。

近年では、大会により若干の差はありますが、全出場選手の40パーセント以上が女性となっています。

### ２ イスラム教国の女性の参加

２０１２年の第30回ロンドン大会で初めて、参加国・地域のすべてから女性選手が出場しました。それまではイスラム教の戒律（※1）により、サウジアラビア、カタール、ブルネイの３カ国は、女性の出場を認めていませんでした。

女性選手の参加が実現した現在でも、イスラム教の戒律に従った服装（※2）で競技に参加しなければならないなど、女性に対する制限は残っています。

（※1）公の場で、女性の肌の露出は制限されている

（※2）顔を覆う、体のラインが見えないようにする、など

### ３ 人種（民族）差別

１９３６年、ナチス政権下のベルリンでオリンピックが開催されましたが、開催国の人権侵害を理由に、各国でボイコット運動が起こりました。

また、アパルトヘイト（有色人種差別隔離政策）を行っていた南アフリカ共和国は、その制裁措置として、１９６０年のローマ大会を最後に、オリンピックから締め出されました。以後、南アフリカ共和国はアパルトヘイトを撤廃するまで、オリンピックへの参加が許されませんでした。

### ４ 先住民

オーストラリアでは白豪主義のもと、アボリジニーなどの非白人に対して差別的な扱いが続いていました。しかし２０００年第27回シドニー大会では、最初と最終の聖火ランナーをアボリジニー出身の女性アスリートが務めました。

２０１４年のソチ冬季大会は、開催国ロシアの性的少数者に対する差別が問題となりました。国際オリンピック委員会はこの大会後、オリンピック精神に性的指向による差別禁止を加えました。

こうしたさまざまな人権問題に対して、国際オリンピック委員会を中心に各国が協力し、改善に向け努力しています。

オリンピックやパラリンピックは国際スポーツ大会であり、日本人だけでなく、世界中の人々とともにつくる大会です。私たち日本人と来日した外国人が、互いの社会や文化に関心を持ち、理解することは、多様性を認め合う社会へとつながります。

これも２０２０年の東京大会の意義のひとつであることを、忘れないようにしましょう。

**問** 教育委員会事務局 人権・同和教育係
☎０９４３・３２・００９３（内線３１３）

# 広川町に残る城と館跡
## 鬼ノ口城　その1

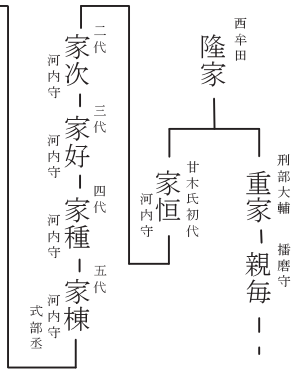
### 鬼ノ口城主　甘木氏のルーツ

甘木氏は西牟田氏からの分流です。西牟田氏はというと、伊豆三島（現在の静岡県三島市）を本貫地（今でいえば本籍地や出身地のこと）とする氏で、本姓は宇都宮です。鎌倉時代の嘉禎年中（1235～1237）に、三潴郡西牟田村に来住し、姓を西牟田と改めました。

応仁2年（1468）のこと、西牟田重家の弟家恒（家氏とも）が、上妻郡甘木村を拝領して分家し、甘木村の馬場に拠点となる常居の館所を構えます。そこで村名を冠して甘木氏を名乗ります。

諸資料では等しく、以後は七代相続（109年間）して甘木村を領す、としています。

その系譜を示しますと、




のようになります。

### 日向耳川の戦に出陣

天正6年（1578）のこと、豊後大友義鎮（宗麟）の旗下として、耳川の戦（現在の宮崎県児湯郡高鍋町・木城町一帯で繰り広げられた）に出陣します。

時の鬼ノ口城主は第五代の家棟で、長子の安家ともども出征です。次子家長は幼少であったことから同行していません。

城主親子には、甘木家の重臣12人が随従します。高橋右京・山田善五兵衛・中島左馬助・有積丹波・橋詰与七郎・中山小太郎・香山民部・掛橋刑部・同与八郎・草場三五郎・姫野久太郎・同伊豆などの名前が伝えられています。

『九州治乱記』では、筑後の諸将たちは10月2日に出発し、同24日に高城（木城町）周辺に着いています。

これら長旅の遠征を余儀なくされた豊後大友勢は地の利も無く、対して十分な布陣をして待ち受ける薩摩島津勢の有位は如実に働いて、結果は大友勢が大惨敗を喫します。

甘木主従も悉く討死と伝えられ、出身の村には供養の墓が営まれています。中島殿の墓（宝篋印塔）・吉常殿（主篋印塔）・塚殿さん（自然石）などがそうです。

### 鬼ノ口城周辺には縁の地名

そもそも鬼ノ口城とは、角の生えた鬼とは無関係で、尾根の口が語源で、鬼ノ字を使うのは後のこじつけでしょう。

城主の館所の場所を舘と呼び、馬場・掃部谷（鴨谷）・弓場谷（射馬谷）なども甘木氏に縁の地名と考えてよいでしょう。

### 甘木氏の系譜の謎

大友氏が出した文書に、甘木紀伊守と和泉守の名があります。次回はこの謎を考えます。

（広川町郷土史研究会）

五ヵ村井堰より鬼ノ口城跡（正面の山）を望む。山頂部に城跡が残る。（鬼ノ渕区）

## 広川町古墳資料館だより

熊本県立装飾古墳館は、県内の主要な装飾古墳のうち12基の精密なレプリカをつくり、出土した副葬品などとともに展示しています。

熊本県では、熊本地震により多くの装飾古墳が被災しています。石室内の旧状が精巧に再現されているこのレプリカを、レーザー3次元計測の対象として、もとの状態に復元しようと考えられているそうです。

考古学の世界では、調査員が古墳の石室を手で測ることが常識でした。しかし現在は、スキャン機器による3次元計測で、誤差極小で、時間もかからずに文化財を復元できるようになりました。

↑ 井寺古墳のレプリカ